

委員会視察成果報告書

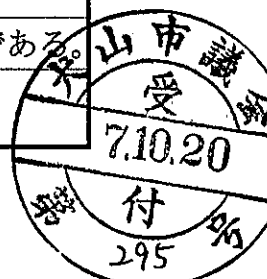
令和7年10月20日

犬山市議会
議長 大沢 秀教 様

議員名 諏訪 毅

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年 10月 8日(水)～令和6年 10月 10日(金) (2泊 3日)
(2) 視 察 地	10月8日(水) 神奈川県 三浦市 「ガストロノミーツーリズムについて」
(3) 視察の種類	常 任 委 員 会 (建 設 経 済 委 員 会)
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	三浦市では、観光庁の「地域一体型ガストロノミーツーリズムの推進事業」を活用し、展開している。三浦野菜や海の幸を活かした高付加価値な食体験の創出を目指している。取り組みに至った経緯として、平成26年に当時の市長の発案で、特命事業を担うための「市長室」が設置された。事業内容は、公共用地の利活用である。 二町谷地区海業振興を目指す用地利活用プロジェクト、「海業」によるプロジェクトを立ち上げ、利活用する事業者を募集した。その結果、2020年度に高級クルーザー販売などの企業と、高級ホテル運営会社へ売却された。今後、二町谷地区では、富裕層をターゲットとした整備が進んでいくが、訪れる富裕層を対象としたサービスの不足、地域の食材は豊富であるが、高付加価値化できていない等の課題があった。そこで、三浦市ならではのロケーションと、地域の食材を組み合わせた新たな観光商品を造成するため、ガストロノミーツーリズムの推進事業」を活用し、実施することとなった。
(5) 犬山市に 対する提言	犬山市は、国宝犬山城、城下町、木曾川鵜飼などの豊富な観光資源を持つ観光都市と考える。観光客数は増加しているが、日帰り客が中心で滞在時間の増加を図る必要がある。その為に、さらなる地域の食文化の再発見や名物料理などの創出が必要である。そして、体験型コンテンツの充実として、食を通じた文化体験の提供も必要である。 以上の事を、民間企業と共に創出していくべきと考える。



委員会視察成果報告書

令和7年10月20日

犬山市議会
議長 大沢 秀 教 様

議員名 諏訪 毅

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年 10月 8日(木) ~ 令和7年 10月 10日(金) (2泊 3日)
(2) 視 察 地	10月9日(木) 埼玉県 加須市 「田んぼオーナー制度について」
(3) 視察の種類	常 任 委 員 会 (建 設 経 済 委 員 会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	加須市北川辺ライスパークの設立目的は、農業・農村体験を通じて市民の農業理解を深め、都市と農村の交流を促進し、地域の活性化を図ることとある。このライスパークは、平成7年に開設した農業体験施設であり、以下のような目的で設立された。 ① 農業・農村体験を通じた理解促進。市民が実際に田植えや稲刈りなどを体験することで、農業の大切さや仕組みを学ぶ機会を提供。 ② 都市と農村の交流促進。都市部の住民が農村文化に触れることで地域間の交流を深める。 ③ 農業・農村の活性化。地域資源を活用した体験型施設として、農村の魅力を発信し、地域の活性化を目指す。 田んぼオーナー制度では、一般の方は5000円、ふるさとチョイスや、ふるなびなどを使ったふるさと納税を利用の方は、30,000円の利用料が必要である。体験内容は、毎年5月3日に「田植え体験」9月上旬に「稲刈り体験」等の体験が行われる。
(5) 犬山市に 対する提言	犬山市では、観光などの地域資源が豊富であり、地域資源と農業との融合ができないか。例えば、犬山市城下町や木曽川鵜飼などの観光資源と連携し「農業×観光」の体験型で「田植え体験+鵜飼観覧+地元料理の夕食など」。このようなイベントを、ファミリー層や、名古屋市などの都市部の若年層やファミリー層にPRし、気軽に参加できる仕組みを整備し、広報すべきと考える。

視察成果報告書

令和7年10月20日

犬山市義会
議長 大沢秀教様

議員名 諏訪 毅

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年 10月 8日(水)～令和7年 10月 10日(金) (2泊 3日)
(2) 視 察 地	10月10日(金) 栃木県日光市 「グリーンスローモビリティについて」
(3) 視察の種類	常 任 委 員 会 (建 設 経 済 委 員 会)
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	グリーンスローモビリティとは、時速20km未満で走行する低速電動車両で、環境負荷が少なく、排出ガスもなく、開放的な車両で自然を感じながら移動が可能である。運行事業者は東武バス日光株式会社が行っており、日光市が車両を無償貸与し、東武バスが運行を担当している。運行期間は、2025年度は、4月26日～11月20日で、9月12日までは毎日運行し、9月13日から火・水・木のみ運行となる 運行エリアは、日光西町地域（田母沢御用邸公園、金谷ホテル歴史館など）で、世界遺産エリアと西町地域の観光資源を結び、観光客の回遊性を向上し、又狭い道路が多く、通常の路線バスが入りにくい地域の交通手段として活用している。 利用者の推移として、令和4年度は、運行日数206日で利用者数は4559人。令和5年度は、運行日数212日で利用者数は9648人。令和6年度は、運行日数170日で利用者数は7200人であった。
(5) 犬山市に 対する提言	時速20km未満で走行するグリーンスローモビリティを当初、城下町等に来る観光客を、城下町以外、例えば明治村やモンキーパーク等の観光地を周遊できるようにと考えていたが、20km未満での走行では、渋滞などの問題が発生するので難しいと考えるが、今後整備が期待される木曽川河畔などで城下町から河畔までの距離を観光客を乗せ周遊できる等、検討をする価値はあると考える。